

岩手農大同窓会会報

第 32 号

令和 7 年
3 月 1 日

【発行・編集】岩手県立農業大学校同窓会 岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原蟹子沢 14 TEL 0197-43-2211



同窓会役員の世代交代にご協力を

岩手県立農業大学校同窓会

会 長 笹田 昭市

早春の候、同窓会員の皆様には、ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染は少なくなったものの秋からインフルエンザが大流行しています。会員の皆様も気をつけて、どちらにも感染されないようにしてください。

今年の 1 月 17 日は阪神淡路大震災から 30 年が経過したということで、テレビではその特集番組が各種放送されています。阪神淡路大震災から 30 年の間には、2004 年の新潟中越地震、2011 年の東日本大震災、2016 年の熊本地震、2018 年の北海道胆振東部大地震、そして 2024 年には能登半島地震と 5 回も大きな地震が起こっています。

さらに最近、気象庁から東南海トラフ巨大地震が近い将来起こるとの予測が出されて注意が呼びかけられています。歴史上記録が残っているものは、①684 年、②887 年、③1096～1099 年、④1361 年、⑤1498 年、⑥1605 年、⑦1707 年、⑧1854 年、⑨1944～1946 年の 9 回とのことです。約 1300 年間に 9 回ということは、平均すれば 140 年に 1 回となりますが、①～④は 200 年毎ですが、⑤～⑨は約 100 年毎に起こっています。そして、直近の⑨1944 年から昨年 2024 年までには 78 年が経過しています。100 年毎に起こるとすると、今後

の 30 年の内には起こるのではないかとという予測になるようです。

私は、昨年復刊された小松左京さんの「大震災'95」（河出文庫）をネットで購入して読んでいます。小松左京さんといえば、昭和 50 年代に発行した「日本沈没」がベストセラーとなり、2 回も映画化されていることは皆さんもご存じのことでしょう。その小松左京さんが 1 年間かけて独自に取材し、阪神淡路大震災をいろんな観点から記録としてまとめられた本です。ネットで購入できますので皆様も読まれてはいかがでしょうか。

東日本大震災を経験している者として、生きているうちに二度とあのような経験はしたくないとは思っていますが、万が一に備えて我が家でも、米、水、缶詰、レトルト食品等の食糧の他に、カセットガスコンロや非常用トイレ、各種乾電池といった非常用品を備蓄するようにしています。できるならそれらを使わなくていいようにと祈るばかりです。

さて、同窓会では今後の活動継続のために役員の方の若返りを図っています。新農業短期大学校や農業大学校の卒業生の方々に支部の役員となって同窓会活動に参画していただきたくよろしくご協力をお願いいたします。



同窓会報に寄せて

岩 手 県 立 農 業 大 学 校

校 長 竹 澤 利 和

岩手農大同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動の推進に多大なる御支援と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本校は、昭和 56 年 4 月に新生県立農業短期大学校として開校し、以来、三千名を超える優れた人材を輩出し、その多くが県内各地域のリーダーとして活躍しております。

一方、本校の施設は、昭和 40 年から 50 年代に整備されたものが多く老朽化が進行しており、この 7 月には、原因不明の全校停電といった事態に見舞われました。校内のあらゆる個所に発電機を設置して学校運営を維持してきておりましたが、電線の更新などにより何とか年度内には全面復旧できる見込みとなっております。

以前は、冬は雪深く夏は比較的涼しい六原の地であったのですが、ここ 2 年連続で六原らしからぬ小雪、夏も猛暑の日が続くといった状況に変化してきております。こうした中、今年度から学生寮へのエアコン整備を進め、来年度からは快適な寮生活が送られるものと期待しております。

近年、農業従事者の減少・高齢化、経済のグローバル化、気候変動や G X ・ D X の進展など、本県農業を取り巻く環境が大きく変化する中、農業大学の果たす役割はますます重要になっていると認識しています。

しかしながら、教室棟へのエアコンの未整備や施設の老朽化に加え、少子化の進行に伴う学生数の減少が危惧される中、本県農業の次代を担う農業者を着実に育成していくためには、魅力あるカリキュラムや研修内容の充実、施設の整備等により、農業大学の機能を強化していくことが必要と考えています。

そこで、今後、農業大学の果たす役割や必要となる機能、施設整備の方向性などについて、農大同窓会役員様をはじめ、農業者や関係団体等の意見を伺いながら、「農業大学の機能強化に向けた基本構想」の策

定に向け、検討を進めていくこととしており、本校の魅力や機能、環境の一層の充実・強化が図られるよう取り組んでいきます。

さて、令和 6 年度における学校行事で特筆すべきは、コロナ禍により中止を余儀なくされておりました海外農業研修が 5 年ぶりに再開できたことです。本研修は、平成元年から 31 年間にわたり、米国カリフォルニア大学デービス校にお世話になってきましたが、その後、物価高騰や円安といった日本を取り巻く経済情勢が大きく変化したことにより、オーストラリアクアーズ地方におけるファームステイを中心とした研修に変更したところです。

研修先の変更はあったものの、海外農業研修は今回で 32 回を数え、これまで約 1,400 人もの学生が研修に参加し、高度に機械化された大規模農業や持続的な農業など多様な農業の姿を学ぶことができました。本県農業の担い手として期待される本校の学生にとって、海外の農業経営や技術、その基盤である自然や文化に直接触れることは大変貴重な経験であり、また、異国の地に立つことによって日本農業の魅力や課題にあらためて気付かされる良い機会となったものと考えています。

このほか、恒例の「農大祭」につきましては、農大祭実行委員長を中心とした学生の主体的かつ積極的な取組により二日間にわたって開催しました。開催にあたりましては、同窓会からの御支援をはじめ、地域の郷土芸能や農業関連企業等の御協力もあり、両日とも多くの来場者で賑わいまして、充実感と達成感に満ち溢れた学生の姿を見ることができました。

もう間もなく、2 年生が本校を巣立ちますが、本県農業を支える人材として活躍できるよう、引き続き同窓会の皆様の御指導・御支援をよろしくお願いいたします。

結びに、同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げまして御挨拶といたします。

—新たな旅立ちにあたり—

今春卒業し、同窓生の仲間入りをする学生からの寄稿



2年間を将来へ

農産経営科2年 荒川 響介

2年前の春、初々しい気持ちで入学した日がつい最近のようにも感じられます。授業や実習、卒業研究で忙しかった日々はあっという間に過ぎてしまいました。私は農業大学校で水稻を中心に学び、機械操作や栽培技術等、多くを学びました。

4月からは、花巻市の農業法人へ就職して水稻や小麦の栽培方法を実践的に学び、将来は地元遠野で就農し、地域農業の発展のため努力したいと思います。



農大での2年間を通じて

農産経営科2年 菊池 岳人

私は、実家が農家ということで農業を身近に感じており、自分も将来農業に携わりたいと思い、農業大学校へ入学しました。

この2年間で実習や事例研究などを通して、技術や知識だけでなく、改めて農業の楽しさや魅力を感じることができました。また、頼もしい仲間ができて、学校も寮生活も充実していました。

卒業後は、ベルグアース株式会社に就職します。農大で得た知識を生かして頑張りたいと思います。



農大での2年間とこれから

野菜経営科2年 遠藤 凜寧

私は、この野菜経営科の2年間で深い学びを得ることができました。最初は上手くいかない級友との人間関係など大変なこともありましたが積極的にコミュニケーションをとるなどして解決し、充実した学校生活にすることができました。

卒業後は JA 全農いわてに技能職として就職し紫波の先進園芸実証圃場で働きます。身に余る光栄です。就職後も精進を忘れず農大で学んだ技能を生かし頑張りたいと思います。



みんなと共に学んだ2年間

野菜経営科2年 佐々木 俊弥

農大に入学してからの2年間はとても早くあっという間でした。入学後は、野菜の事について同期の14人と毎日、朝早くから夕方まで、ともに助け合いながら楽しく学ぶことが出来ました。

卒業後は、地元の農協に入り地元の農業を盛り上げられるように農大で学んだ知識を十二分に発揮していきたいと思います。



組織と地域に貢献する

果樹経営科2年 菅原 彩葉

私は、農業大学校で果樹経営について学びました。高校は農業とは関係のないところだったので、入学当初は農業に関する知識も経験も全くなく、常に新鮮な気持ちで授業に臨むことが出来ました。実践的な授業が多く初めは戸惑うこともありましたが、多くの経験を積むことが出来ました。

卒業後は JA いわて花巻に就職します。農大で学んだ知識や技術を最大限に活かして組合や地域の農業に貢献できるよう励みたいと思います。



2年間を通して学んだこと

果樹経営科2年 和田 滉聖

私は、実家が農家ということで農業の楽しさを身近で感じつつ別の作物をやってみたいと思い岩手農大へ入学しました。入学当初は果樹に関する知識も経験も浅い状態でしたが、2年間を通して座学や実習、事例研究で果樹について深く学ぶことが出来ました。

卒業後は新岩手農業協同組合に就職します。これまで農大で得た知識や経験を生かして自分の地域で果樹栽培の発展に貢献していきたいと思います。



覚悟を決めた2年間

花き経営科2年 石川 樹

私は、実家がユリ農家で、将来家業を継ぎたいと考えていたため、農業の知識と技術を高めるため岩手県立農業大学校へ入学しました。入学後は専攻実習や座学を通して、花き栽培における基礎を学び自信ができました。さらに卒業研究で得られた結果を、実家の生産に活かすこともできました。

卒業後は、オランダや新潟、東京、千葉といったユリ産地での研修を行い、就農後の経営に繋がっていききたいです。2年間ありがとうございました。



農大生を終えて

花き経営科2年 齊藤 花恋

私は、フラワーデザイナーになりたいと思い、岩手県立農業大学校に入学しました。入学後は、フラワーデザインはもちろんのこと、花の栽培や出荷なども学ぶことができ、充実した大学校生活になりました。また、日々の花の管理当番を通して、栽培への興味も増したほか、出荷時のお客様の笑顔にも喜びを感じるようになりました。卒業後は、スーパーオセン北上店に就職が決まっているので、農業大学校での学びを活かして頑張ります。



2年間を通して

酪農経営科2年 平 光花

私は将来酪農業につきたいと思い農大に入学しました。農大では日々の当番や実習を通して飼養管理や搾乳方法など酪農の基本となる作業を経験することができました。慣れない作業で挫けそうになることもありましたが、多くの友人や先生方に助けてもらい自分を高めていくことができました。

卒業後は、洋野町の株式会社久慈平岳牧場に就職します。農大の2年間で学んだ知識や取得した資格を生かしながら就職後も技術向上に向けて努力していきます。



2年間を通じて

酪農経営科2年 千葉 美緒

私は、農大でより実践的な知識や技術を身につけたいと思い入学しました。入学後は事例研究などを通じて最先端の施設を見ることが出来ました。また、2週間の農家派遣を通じて畜産農家の現状や経営の実態を肌で感じる事が出来、充実した2年間になりました。

卒業後は江刺農協に人工授精師として就職します。就職後は人工授精師の腕を磨くとともに体調管理にも気をつけて頑張りたいと思います。



2年間の農大生活を通して

肉畜経営科2年 大下 愛子

私の実家は非農家ですが、農業高校に通い牛と関わる中で将来牛に関わる仕事に就きたいと考え農大に入学しました。2年間という短い期間の中で、実習や当番を通して実践的な知識・技術を身に付けることができ、仲間にも恵まれ、充実した毎日を送ることができました。

卒業後は、奥州市の株式会社あんばい牧場に就職します。農大で学んだ技術だけでなく、これからたくさんさんのことを吸収し、さらに成長していきたいです。



「うし」

肉畜経営科2年 千葉 愛華

私は、家が繁殖農家だったこともあり、小さい頃から牛と触れ合う中で牛が好きになりました。その縁から農大に入学しました。入学後は、授業や当番などを通して牛に関する知識と技術を身に付けることができました。牛と触れ合う機会も多く、良き学びだったと感じています。

卒業後は家畜改良事業団盛岡種雄牛センターに就職します。今後は、新たな知識を身に付けさらに成長していきたいです。そして新たな挑戦もしていけたらと思います。

◆ 支 部 だ よ り ◆

北上支部

北上支部の今後の活動

北上支部長 千田 敏夫

去る平成 29 年 4 月、農大同窓会北上支部の役員改選がなされました。当時、北上市議会議員で北上支部支部長であり、同窓会会長を務めておられた及川誠さんが、支部長を退くこととなり、新たな北上支部の役員を選ぶための会議と親睦会が開催されたのでした。

改選された北上支部役員は支部長 1 名、副支部長 2 名、幹事 9 名（内、本部代議員 3 名、本部監事 1 名）。北上支部役員は西和賀町と北上市をまたいだ広い地域からの選出と、1960 年の卒業生から 1986 年の卒業生までの幅広い年代構成での役員が選ばれました。

かつては支部活動として、役員一同で農大祭を訪れ、大学校での学生の様子や活動に触れた後、親睦会を開いて地域農業についての意見交換やそれぞれの近況を話したりして親交を深める活動を行ってきました。

しかし、近年はコロナウイルス感染拡大もあり、活動が停滞していたのも現状です。

そんな中、令和 5 年度の農大同窓会総会において決議された、同窓会役員の若返りに向けて今年度内に改めて北上支部役員会を開催し、新たに卒業年の若い方々を役員に招き入れて、フレッシュなメンバーでの新体制を構築したいと考えています。

いろいろな世代の卒業生の方々との交流も図りながら、共に意見を出し合い、地域に根差した有意義な支部活動を目指して、これからも活動する機会を増やしていきたいと思います。



気仙支部

支部長退任にあたって

気仙支部長 林田 勲

平成 19 年 4 月に気仙支部支部長に選任されて以来努めてきた支部長を、令和 7 年 3 月に退任することになりました。振り返れば足掛け 18 年という長きに渡って支部長を務めたことになります。支部長就任時は自分なりに 4 つの活動目標を定め支部の活性化をめざしました。

目標の一つ目は支部同窓会名簿の整備であります。名簿には故人となられた方や明らかに住所や姓の異なる方も少なからずありましたので、支部事業として会員名簿の整備に着手しました。

二つ目は支部会則の整備であります。当時の会則は平成元年に制定されたもので、その後改訂されず運用されておりました。これを実態に合うように改正しました。

三つ目は同窓会活動の活性化であります。会員間の交流や情報交換をねらいに役員会や総会は勿論のこと、各種研修会についても力を入れてまいりました。

四つ目は地域農業関係機関との連携を図りながら地域農業や農業後継者、新規就農者への支援に取り組んでまいりました。懸命に農業現場で頑張っている卒業生、後輩、在校生に及ばずながらエールを送ろうと思って活動してきたところです。

振り返ってみますとこれらがどれほど実現できたのか自信はありませんが、J A や農業改良普及センター、市町村などの関係機関の助言をいただきながら少しでも地域農業の実態に触れ次代を担う若い農業者の育成や後押しができたことを誇りに思っています。

令和7年度からは、当支部も役員体制が新農業短期大学校以降の卒業生に一新されます。新役員さん方には新鮮な感覚で同窓会活動に取り組んでいただきたいと念願しております。

農業大学校同窓会の歴代会長さんをはじめ役員さん、同窓会事務局の皆様には長い間大変お世話になりました。母校岩手県立農業大学校の限りない発展と関係各位のご活躍を心よりご祈念申し上げます。



◆ 農 大 の 近 況 ◆

海外農業研修を開催

8月27日から9月3日までの8日間の日程で、本校2年生15名（農産4名、野菜3名、果樹2名、酪農4名、肉畜2名）が参加し海外農業研修を開催しました。

海外農業研修は5年ぶりの開催となりました。これまで実施していたアメリカではなく、オーストラリアケアンズでファームステイ・農場視察等を中心とした従来とは違う形式での研修となりました。

参加学生のほとんどが初の海外渡航で、言葉や文化の違いに不安を抱いていたようですが、翻訳アプリなど便利なツールを使いこなし、すぐに陽気なオーストラリアの風土に馴染む学生の順応性に頼もしさを感じました。

広大な土地で行うサトウキビ栽培、多種多様な亜熱帯果樹栽培、かん水施設を兼ね備えた周年放牧といった国内では見ることができない農業経営に触れるとともに、後継者不足や環境負荷を考慮した土づくりといった身近な農業経営との共通点があることも学ぶことができました。農業を取り巻く国際的な視野が養われた有意義な研修でした。



広大な農地を活かした農業経営



果樹管理作業

Wild Cup 2024 に参加

県農林水産部主催の政策提案型調査研究コンテスト「Wild Cup 2024」が8月7日～8日に盛岡で開催されました。本コンテストは、従来にない野心的（＝新しく大胆）な政策立案に向けた調査・研究を通じ、農林水産業の活性化及び職員（学生）のスキルアップを図るために毎年開催されているものです。募集テーマは、農林水産業の収益力アップや農林水産業を核とした地域活性化を目指す構想です。

本校からは、農産園芸学科果樹経営科と畜産学科肉畜経営科の1年生2チームが参加し、肉畜経営科チームの発表タイトル「農大から発信する！酒粕を用いたサステナブルな農業」が部門別表彰の「学生グループ部門賞」を受賞しました。なお、果樹経営科チームはタイトル「りんごせん定枝の有効活用」について、発表しました。

当日は、2チームともしっかりとした発表ができ、よい経験となりました。今回の経験を活かして、これからの卒業研究等に取り組んでいってほしいと思います。



果樹経営科の発表



肉畜経営科の発表

「元気の出るセミナー」開催

「元気の出る農業セミナー」を11月14日（木）に、本校大教室で開催しました。このセミナーは、農業分野で活躍されている経営者を招き、多様な視点から農業の現状と課題や解決のための取組について学習するとともに、今後の地域農業や農村振興について理解を深めることを目的とし、毎年開催しているものです。

この日は、2名の農業農村指導士から講演をいただきました。岩手農大の同窓生でもある古川佑史氏（八幡平市）からは、環境制御技術を導入しミニトマトの品質の安定と単収増加につなげた取組について、また、藤森康隆氏（葛巻町）からは、積極的な投資により、出荷乳量を葛巻町1位とした取組や、岩手県乳質改善大賞を受賞した取組をお話いただきました。

学生からは、収益を向上させるための手法、機械導入時の情報収集方法等、多くの質問があり、まさしく「元気の出る」セミナーとなりました。



学生が疑問点を積極的に質問

「2024 農大祭」大盛況！ 2日間連続の一般公開、模擬店に大行列

「2024 農大祭」は、「世はまさに大農業時代！今こそ若い力で盛り上げよう！」をテーマに10月26日～27日の2日間開催しました。2日間を通し、一般公開として経営科毎に模擬店を展開、学生が作った農畜産物や加工品の販売を行いました。体育館では、2年生の卒業研究や1年生のプロジェクト研究成果をパネルで展示しました。ステージイベントは初日のみの開催でしたが、昨年に引き続き、六原鬼剣舞の演目披露とチャグチャグ馬コ交流会を開催し、大盛況でした。2日間とも好天に恵まれ、各経営科の模擬店には行列ができるほどの多くの来場者で賑わいました。



【農産経営科】



【野菜経営科】



【果樹経営科】



【花き経営科】



【酪農経営科】



【肉畜経営科】

令和7年3月卒業予定者の進路状況

令和7年1月31日現在

区 分	進 路 先
就 農 4名	県内：花巻市、二戸市、軽米町 県外：秋田県美郷町
雇用就農 15名	裕行ファーム(株)、ベルグアース(株)、(有)東部開発、(株)GRA、(株)イグナルファーム、(株)オヤマ、仙台ターミナルビル(株)JR フルーツパーク仙台あらはま、(株)HORSE & MUSH、(株)久慈平岳牧場、(株)あんばい牧場、(株)岩手パイオニア牧場、(一社)家畜改良事業団盛岡種雄牛センター
農業団体 13名	JA 全農いわて、JA 新いわて、JA いわて中央、JA いわて花巻、JA 岩手ふるさと、JA 江刺、JA いわて平泉、JA 秋田ふるさと、JA さがみ
農業関連企業 7名	エム・エス・ケー農業機械(株)、ヤンマーアグリジャパン(株)東日本支社、(株)丸山製作所、クボタアグリサービス(株)、鈴木農機(株)、(株)みちのくクボタ、(株)純情米いわて
一般企業 3名	(株)ロフティ、(有)小専商店、(株)マーキュリー
公務員等 2名	(公社)岩手県農業公社、(独法)家畜改良センター
農業研修 2名	Bredefleur(オランダ)、秋田林業大学校
進 学 3名	岩手大学農学部、新潟大学農学部、帯広畜産大学畜産学部